

別紙標準様式（第7条関係）

会 議 録

会 議 の 名 称	令和元年度 第1回 枚方市社会福祉審議会（本審）
開 催 日 時	令和元年5月10日（金） 15時 00分から 17時 00分まで
開 催 場 所	枚方消防署 5階 研修室
出 席 者	上野谷加代子委員長、明石隆行委員、谷口律子委員、岡崎成子委員、 河野和永委員、長尾祥司委員、大西雅裕委員、安藤和彦委員、石田 慎二委員、所めぐみ委員
欠 席 者	宮原保子副委員長、永嶋里枝委員、上谷好一委員、橋本有理子委員、 本多隆司委員、三戸隆委員、武正行委員、富岡量秀委員、多田正知 委員
案 件 名	1. 専門分科会等の委員指名について（報告） 2. 各専門分科会等の審議状況について（報告） 3. 各福祉計画の策定について（報告） (1) 枚方市地域福祉計画（第4期） (2) 枚方市子ども子育て支援事業計画（第2期） 4. 民生委員・児童委員の一斉改選について（報告） 5. その他
提出された資料等の 名 称	1. 専門分科会 指名等委員一覧 2. 平成30年度 各専門分科会等における審議状況 (平成30年度末時点) 3. 令和元年度（2019年度）策定予定の各福祉計画について 4. 民生委員・児童委員の一斉改選について
決 定 事 項	・ ・ ・ ・
会議の公開、非公開の別 及び非公開の理由	
会議録の公表、非公表の 別及び非公表の理由	公開
傍 聴 者 の 数	なし
所 管 部 署 ( 事 務 局 )	福祉部 福祉総務課

審 議 内 容	
発言者	発言の要旨
委員長	<p>皆様、こんにちは。定刻になりましたので、ただいまから令和元年度（2019年度）第1回枚方市社会福祉審議会（本審）を開催させていただきます。開催に当たりまして、福祉部長よりご挨拶をいただきます。</p> <p style="text-align: center;">＜福祉部長挨拶＞</p>
委員長	<p>ありがとうございました。それでは、まず本日の審議会委員の出席の状況について、事務局より報告をお願いします。</p>
事務局	<p>ただいまの出席委員は、現在10名です。委員定数19人のうち、2分の1以上の出席をいただいておりますので、枚方市社会福祉審議会条例第7条第3項の規定により、審議会は成立していることをご報告いたします。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。</p> <p>次に本日の傍聴者の方々についての報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>本日の傍聴者数はゼロ名となっております。</p> <p>ここでお時間をいただきまして、本年4月の本市の機構改革や人事異動に伴い、事務局の職員に変更がございましたので、出席の事務局を機構に沿って、順にご紹介をさせていただきたいと思っております。</p> <p style="text-align: center;">＜職員紹介＞</p>
委員長	<p>それでは、案件に移らせていただきます。</p> <p>案件1「専門分科会等の委員指名について」でございます。事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>＜資料確認＞</p> <p>＜案件1「専門分科会等の委員指名について（報告）」について資料1にて説明＞</p>
委員長	<p>委員の指名につきましては、委員の辞職に伴います事柄でございますので、また分科会等の審議に必要ということもございましたので、事務局の今のご説明のご報告のとおり、指名をさせていただいておりますことをご報告いたします。</p>

	<p>それでは、次の案件でございます。平成30年度 各専門分科会等における審議状況（平成30年度末時点）について、報告をしていただきます。事務局から説明をお願いいたします。</p>
事務局	<p>&lt;案件2「各専門分科会等の審議状況について（報告）」について資料2にて説明&gt;</p>
委員長	<p>ありがとうございました。それぞれの委員の方々、あるいは分科会の会長の立場からでも、補足並びに、そのときに話題になりましたこと、本審でぜひ、ということがございましたら、どうぞご意見等お願いします。</p>
委員	<p>児童福祉専門分科会のひとり親家庭のところなんですけれども、これは母子も父子も同じ考えで取り組んでいったらよろしいのでしょうか。</p>
委員長	<p>位置づけですね。ひとり親のところの母子と父子の、別にございますけれども、その関係性というか、それはこれからどうなっていくのでしょうか。</p>
事務局	<p>父子家庭の方からのご相談も少しずつは増えておりまして、制度としては、母子家庭も父子家庭も同じような支援のプログラムがありますので、いろいろお話をお聞きしまして、適切な支援を行っています。</p>
委員	<p>なぜ聞いたかといいますと、今、私どもの福祉団体連絡会の12団体の中に母子の団体と父子の団体とがあるんですが、同じ立場なんだけれども、お父さんが働く人、お母さんが働く人、ということの違いでなかなか一緒に考えることができないのではないと言われてまして。でもひとり親家庭とすれば、同じではないかなというところから、じゃあ、今からそれをどう考えていくのかなというふうに、ちょっと感じたものですから。</p>
事務局	<p>例えば収入の面などでも違ってくる部分がございます、特に今、父子家庭のほうで、なかなかご相談できていないというのは、実際にもあります。制度としては、同じものなんです、少し相談が受けやすいようなことでやっていけたらなと考えております。</p>
委員長	<p>児童福祉の分科会長、少し補足をお願いします。</p>
委員	<p>児童福祉専門分科会の方ですが、母子父子の生活課題という観点から</p>

	<p>考えますと、それぞれ状況が違いますので、大きな問題としては、幾つかの問題、課題というのがあります。</p> <p>今回、母子及び父子、並びに寡婦福祉法という法律の名称が変わりまして、制度等、サービスの施策なんかも、割と共通してサービスを受けられるようになってまいりました。それぞれのところで、いろいろな課題が個別にいろいろあります。その状況に応じて、サービス体系が包括的になっていったというあたりでは、共通の課題を生活課題ということで、対応していけるというような状況には、なっております。</p> <p>ただ、女性の就労ということで考えますと、母子家庭の2分の1が相対的貧困家庭になるというようなことが言われております。父子はと言いますと、本当はかなり給与的にも上じゃないかというようなこともあるんですけども、詳細にケースを見て行きますと、案外、貧困の状況にある家庭もあつたりします。今回、一つの包括的な制度になったことによって、今まではなかなか制度のサービスが違いましたから、「何で母子だけ制度があつて、父子にはないんだ。父子には、こういうところが社会的に認められているのに、何で母子はこんなにしんどい状況なんだ」というようなことがいろいろあつて、なかなか一緒に土壌で話ができなかったということがあつたんですけども。</p> <p>今回、包括的になったことによって、徐々に変わってきているかなと思います。少しでも生活課題に対応できるような、計画なり、サービスなりを提案して個別のいろいろな問題にも対応できるようなサービスを考えていかないといけないのかなというように思っております。</p>
委員長	<p>「ひとり親家庭等」にはかなり含みがあつて、父子家庭も母子家庭もちろん入つていて、それぞれの事情がありますが、一緒に土台で話をしていけるというその途上だという考えでよろしいでしょうか。</p>
委員	<p>母子寡婦の団体は、すごく長い歴史があつて、今がありますけれど、父子さんは、まだまだ最近できたところで、その辺の違いがあつたり、やっぱり先ほどおっしゃった働き手の違いが大きくて、なかなかうまくいかないかなというふうに感じているんです。団体の中でも、やりとりをしているのを聞いて、身につまされるような思いをしながら、聞かされているときもあるので。ちょっとその辺も含めて、枚方市として、もうちょっと何かできればいいのかなと思つた。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。とても大事な視点でございます。枚方市は、全国に先駆けて、父子福祉会をつくられて、歴史的な動きもずっとあるわけですが、しかし今日的な課題をどう抱えてやっていくかということ</p>

<p>委員</p>	<p>で、とってもありがたい適切な指摘をいただきました。そのほか、いかがでございますか。</p> <p>地域福祉の専門分科会ですけれども、先ほど事務局のほうから報告していただきましたように、昨年9月に分科会を開催しました。毎年、計画の取り組みの中で、年度ごとにテーマを設定して地域福祉のセミナーを開催しております。</p> <p>昨年度は、大阪北部地震であるとか台風とか、大きな災害が続いたという中で、もともと地域福祉の取り組みは、平時からこういった災害のみならず、私たちの暮らしというのをみんなの力で支え合っていくという取り組みを大事にして、枚方の45の小学校区でも、それぞれの取り組みを積み重ねてこられています。</p> <p>昨年度は、そのことを振り返るということでテーマを設定して、地域福祉セミナーを開催し、私自身もそこで、すごく学ばせていただきました。よくあるのは、「だからこそ常日ごろからの取り組みが大事だね」ということはほかの地域でもよく伺うところなんですが、災害に備えるということが一つと、実はこれまで取り組んできた、いろいろな地域の中での活動というの、やはり災害時には影響を受けると。被災の直後にサロン活動などいろいろな取り組みを開催するかどうかを、どうやって判断するかや、直後の見守りとか安否の確認などを、どんな人たちと、どのように進めるかというようなことが、皆さんで振り返りをされて、個々によっては、その災害対応そのものというよりは、災害のときでも、ふだんの活動をどうするかというような、新たなマニュアルづくりなどを実際に丁寧なされたというようなところもありました。</p> <p>それからふだんは、助けるというか、支え手になっているような形で関係性を持っていたところに、逆に障害のある方のお宅に助けてもらったとかですね。地震が大きくて、部屋の扉が開かなくなるような状況なんかも起きていましたので、そういう意味で本当に一方通行ではなくて、お互いに学んだな、ということの再確認ができたというようなことの発表を三つの校区からしていただいたんですけれども、ご参加いただいた皆さんと、それを共有することができて、とても実りあるセミナーになったかなというふうに思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございました。災害に関することへの対応も、それぞれの計画に入れていかないといけない時代に入っておりますので、ここもちょっと頭の痛いところでございますが、とても大事なことになっております。</p> <p>それでは、次の案件で、またご意見いただくといたしまして、次の案件ですね、各福祉計画の策定について、に移らせていただきます。事務</p>

	<p>局より説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>&lt;案件3「各福祉計画の策定について（報告）  (1) 枚方市地域福祉計画（第4期）  (2) 枚方市子ども子育て支援事業計画（第2期）」  について資料3にて説明&gt;</p>
<p>委員長</p>	<p>今年度に計画を報告いただく二つの分科会からのご報告がございました。地域福祉計画からいきましょか。地域福祉計画は、ご承知のように社会福祉法の変更によりまして、位置づけが今までと異なります。各自治体におかれましては、今までとどう異なるのかということで、キーワードに全て落として、それが入りながら、新しいものがどう入るかで、マトリックスをつくったりして、力仕事の作業をなさっている自治体もあれば、いやいや、今までもつくってきたし、これにちょっと加えたらいいんじゃないかという自治体もあれば、全国を見ておりますと、千差万別という感じでございます。枚方はどの辺に位置づくんでしょうか。分科会長どうでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>地域福祉を進めるのは、本当に一つの主体ではなくて、住民さんであれ、事業者であり、いろいろな民間の団体であり、本当にみんなで進めていくということだと思ふんですけれども、そういった形で私たちの町をみんなの力で暮らしやすく、そして、そこで本当に誰もが安心して暮らし続けられるような地域や環境をつくっていくというようなところでは、本当にみんなの力と、それぞれの力が必要です。</p> <p>この計画というのは、できればそういった、一緒にやっていく人たちの輪をより広げられたりとか、それぞれの方たちが、力を発揮できるような仕組みや場、機会をつくったりとか、そのために必要な方法をつくっていくとか、そういったことを入れていけるといいのかなと思っています。</p> <p>実は枚方市民さんから、私はかなり早い時期から言われたことなんですけど、地域福祉計画を絵に描いた餅にしないようにということですね。どういう意味でおっしゃったかと言いますと、そんなに立派なものだけをつくるということではなくて、本当に自分たちの町をよくしていきたいとか、困っていることを解決していきたいとか、そして、自分たちでできること、やりたいことという意味で、「絵に描いた餅」ではない計画を、と仰ったと私は理解して、それ以降、いろいろなお縁もあって関わらせていただいています。</p> <p>そういう意味でいいますと、枚方の計画をどういうふうに評価したらいいのかなと、計画そのものというよりも、実際にどう動いているかな</p>

	<p>というところを見たときには、先ほど申し上げましたけれども、小学校区単位それぞれで、さまざまな活動も展開されておりますし、またエリアごとであったりとか、少し広い全市レベルでも、いろいろな古くから続いている活動、それから新しく生まれてきているかなというような活動も見られているところです。</p> <p>ただ、それぞれが社会の変化もある中では、もう少しほかの人たちの力も得て、拡充していく必要があるんじゃないかということも見られていますし、実際に地域おこしに、主に関わってこられている方たち自身からの声を聞いていますと、今はよくても、これから先のことを考えたときに、人の力が足りなくなるのではないか。この後の案件にある民生委員のこともそうですし、それ以外の福祉の活動をされている方もそうですし、また専門職の方たちも、福祉の仕事につこうという方が、今なかなか集まらないという状況の中で、どうしていこうとか。課題があって、私自身は、確かに理念だけのような計画では、いけないと思っていますけれど、全てできないかもしれないけれど、少なくともいろいろな方たちが関心を持てたりとか、こういう場でこういうことが話せるということ、枚方の中で既に行われていることが、みんなわかるように、共有できたり。ないものについては、つくっていけるというようなことが進められる計画にしていけるといいのではないかなというふうに思っています。</p> <p>先ほど事務局からもお話がありましたけれど、資料3の1ページ目の図でいきますと、地域福祉はきょうお集まりの委員の皆様が関わっていらっしゃる、それぞれの計画にも当然関わっておりますし、図の右側になります。枚方市の社会福祉協議会で進めておられます地域福祉活動計画の取り組みとも、ますます連携してやっていくということをより大事にしようということで、つい先日も4期の策定に向けて、打ち合わせをしたところなんですが、行政の担当者と社会福祉協議会の担当者とも一緒に打ち合わせさせていただき、今申し上げたような、中身もそうですけれども、どういうふうに取り組んでいくかという策定、ちょっと議論を始めているところでもあります。状況をお伝えさせていただきました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。私から、事務局に質問ですけれども、1ページの真ん中の図と左側に市の総合的な基本計画、地域福祉推進のため、基本計画とありますね。それで分野別の福祉計画。この説明をお願いしますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>総合的な基本計画として、枚方市の総合計画。地域福祉推進の基本としての地域福祉計画。そして分野ごとの福祉計画。それを左側に、その</p>

	<p>イメージを示しました。</p>
委員長	<p>そうすると3ページの子どもの説明の部分では枚方市総合計画と子ども支援で、主な関連計画に入っている枚方市地域計画、は他と並列になっていますね。以下ずっと入っていますね。従来型との関係がちょっとわかりにくかったです。</p>
事務局	<p>そうですね。こちらの3ページの部分でいきますと、ここでの資料では子ども子育て支援事業計画がメインになっているもので、こういう表記になっているのかなと思います。</p>
委員長	<p>市民の側から見て、混乱にないようにして下さい。こういうのは、統一していただいたほうがありがたいです。その他いかがですか。</p>
委員	<p>平成27年から生活困窮者自立支援法が始まって、仕事のサポートとか生活のサポートがされているんですけども、よく言われている生活困窮者自立支援事業で地域づくりを、地域福祉で生活困窮者の支援を、という、両方がタイアップしてやっていくような、合流していくような流れになって、地域福祉の審議会の中に、生活困窮者の推進協議会の機能を受けこんできているところもあるんですけども。</p> <p>枚方の場合は、この生活困窮者の部分が入ってないと思うんですけども、入れるべきなのか、どうなのか。</p> <p>例えば、集合住宅なんかでも、地域の社会支援を活用して、その人を支援していきながら、自立に向けていくようなこととかですね。学習支援にしてもそうなんですけど、いろいろな地域の支援を活用していくという意味では、生活困窮者自立支援事業での地域づくりと、地域福祉で生活困窮者の支援を、タイアップをした地域づくりという、そういう両方がいるように思います。</p>
委員長	<p>ご意見と質問で、枚方の地域福祉計画は、そういうことを入れた上で、おやりになろうとしていらっしゃるのでしょうか。</p>
事務局	<p>そうですね。計画上には、当然前の3期をつくる背景の中で、生活困窮者の問題というのもクローズアップされてきたところもありますので、計画の位置づけの中には、もちろんそれも踏まえた内容とはさせていただきます。生活困窮者だけの審議会は、確かに枚方のほうでは、ないんですけども、計画の中での推進というところでは、そういった要素も盛り込んだ内容とさせていただきます。ありがとうございます。</p>



<p>委員長</p>	<p>いかがでございましょうか。確認と推進のためのお願いということですけれども。住宅入居が難しい人に対する権利擁護が大きな問題になっていますよね。今回の改正法では、住環境の問題が出てまいりました。それも含めて、生活課題というふうに定義づけされたわけですね。特に一人ぐらし高齢者の住宅確保、障害者の住宅確保等々もございましてけれども、地域福祉計画にこのあたりも入りますか。法律で書かれちゃったからこれも福祉じゃないと言えない時代に入っちゃったんですね。これはどうなりますか。</p>
<p>事務局</p>	<p>そうですね。これからの審議の部分もございましてけれども、確かにそういう要素もきており、枚方のほうでも部局は異なりますが、取り組みをやっているところもありますし、恐らく計画をつくっていく中での庁内での意見、集約、取りまとめする中で、そういった部局も交えながらの策定になるのかなと考えております。</p>
<p>委員長</p>	<p>部局を越えてしまう事柄をなさいという法律の動きですので、そのあたりを少し出しておく自治体と、いやいやという自治体とありまして。2040年50年問題を考えたら、少しでも出しておかないと、後の今の20代30代の公務員が困りますので、先にちょっと出してあげたほうがいいのではないかと、そういう感じがしております。</p>
<p>委員</p>	<p>生活困窮者というところの部分と、子どもの貧困という部分なんですけど、子どもが貧困ということは、親も貧困じゃないですか。そういうところから含めて、お仕事はどうされるのかとか、就職口はあるのか、というようにところも含めた支援の仕方をされていくのか、どうなのか。</p> <p>これから高齢化していく中で、年金もない人たちが出てくる年代になっていまして、その人たちの日々の生活がどうなっていくのか。これが皆、生活保護に移ってしまっているのかどうか、ということも含めた取り組みをこれからどうされていくのかな。どんどん増えていっているわけですから。そのあたりどうなのでしょう。</p> <p>もう1点、地域福祉の中で、今オレンジカフェがどんどん増えてきていますけれども、月に1回開けたり、開けなかつたりというのであれば、それはもう地域福祉ではないんじゃないかと思います。「オレンジカフェをやってますよ」というだけであって、何か足しになっていない。「補助金も出しますよ」と言ってくださっているんですけども、その補助金も講師料とかおっしゃっているんですけども、講師料には、ちょっと必要性がなかつたりしているような状況の中にあるんですけども。</p> <p>こういう高齢化社会の中に進んでいく枚方市としては、これから45</p>

	<p>校区の中で、いろいろな取り組みをされていますが、なかなかそれが高齢者の人にとっては、どれを目標にしていかわからないという部分が出てきているように思われますので、その辺のまとまったものにしていただけたらありがたいと思います。</p> <p>事業支援で補助金的なものの柔軟な使い方が、なかなか難しいですけれども、今後、縦割りに出てきているものを横ぐしでという流れですが、お金の使い方もこれは難しいですよ。厚労省はしなさいと言ってるけれども、現場ではできないわけですから。そこも含めて、今おっしゃっていただいた、使い勝手のいい柔軟な方法というのは、「中核市だから、少しはできませんか」というふうに、私はとったんですが、市民参加の手だてですよ。参加しやすい手法。やっぱり人もお金が要りますので、そういう意味では、その辺を柔軟にするような方法。社会福祉協議会の仕事になるかもわかりませんが、ちょっとその辺は、考えないとなかなか地域福祉は進まないというふうに受け取りました。</p> <p>補助金的なものの使い勝手が悪くて、市民の方は動きたいんだけど、動きにくい。「それだったら要らない」という形で、一緒にやろうとしているのに、違う方向にいかれちゃうと効果が薄まりますので、何かそういう感じはしますね。もうちょっと使い勝手のいいように、市民の声を聞かれて、やっていただきたいなという思いもよくわかります。</p> <p>さて、子どものことが出ておりますので、ちょっと子どものほうに行かせていただきます。子ども子育て支援事業計画のかなり大きなことがあるようでございます。これについてのご意見などいかがでしょう。あるいは、障害の立場からでも、どうぞ。</p>
<p>委員</p>	<p>ふだん思っている課題というか、話題を幾つかお話をしたいと思います。一つは、今、いろんな福祉サービスができていますが、例えば障害がある人が、放課後デイサービスを受けて、預かりでもサービスを使われると。学校まで事業所が車で迎えに行って、そこから家に送られて。そうするとほとんど地域に存在していない状態になる。そういったことで、いわゆる福祉サービスの充実というのは、非常に大事なところなんですけれども、逆に福祉が縦割り化をできてしまっていて、地域にそういう人たちがいると言うことが知られないという現状をどう考えるかということ。</p> <p>これと関連するかどうかは、わかりませんが、これも福祉サービスの課題になるんですけれども、地域でグループホームをつくらうとすると、その地域から反対を受けてしまう。そういったことって、どう見るべきなのか。それは単に理解だけじゃなくて、その地域のあり方</p>

	<p>が問われる一つの課題ではないかなと、ふだん思ってます。これは福祉サービスだけできることではなくて、やっぱり教育とか保育とか、地域全体がどういうふうに障害の方と関わるかだと思います。高齢の問題というのは、確かに大きな問題でもあります、いずれなるだろうというような流れもあって、共感を得やすい部分もあると思うんですけども、障害は、そういう点では、理解が得にくい。「サービスでくくったらいじゃないか」というふうに、逆に流れがちなところをどう見るかという。</p> <p>地域福祉となると、サービスとニアリーイコールだけれど、イコールにならない部分もどう埋めるかという思考があるのかなと。それに関連して、今の人材の問題ですよ。2010年に通学支援を作ったんですが、制度を作ったのは大事なことです、担い手がいない。子どもを学校に送るということは、これは行政間との議論協議の中で、これは教育とか福祉じゃなくて、枚方市行政として障害がある子を地域の学校に送り届けることは、やらないといけないということで、教育の範囲だけれど福祉サービスとして提供しようということで、垣根を越えてつくったサービスだと思います。しかしその担い手がいないということで、それは待遇の問題なのかといったら、確かにそれもあると思いますが、むしろ、障害がある人に関わろうという人材が非常に少なくなっているんじゃないかと思います。やっぱり障害がある人のことを考えたい、関わっていききたいという人をどうつくるかというと、多分、今うちのセンターでは、小学校の体験学習とか、当事者研修をよく依頼されるんですが、こういう研修・学習って増えれば増えるほど、そういう人と関わってないんだと思うんです。関わったことがないから、来てほしいとか、見せてほしいとかいうことが、増えてきていて。根本的に障害あるなし含めて、どう地域であるべきかと、もう少し根本的に仕組みをつくっていかないと、あるべきサービスが中止になっていく。それが地域をつくるということで、少し健全ではないのかなと最近そう感じています。</p> <p>委員長                      ありがとうございます。まさに地域福祉にも関わられているし、子ども子育て計画にも関わってくる。「どんな子どもを育てたいのか」ということに関わってくるような内容のお話しですが。いかがでしょうかね。いろいろやってこられて。</p> <p>子ども子育て計画というのは、生まれてから死んでいきますまでの間に、自分の成長をどう見ていくのか、ということが見られる子どもにしないと、後100年SDGsじゃないけれど、持続可能にならないのじゃないかというふうに、みんなびくびくしているわけですよ。そういう意味では、物すごく子ども子育て支援計画の理念をきちっと入れ込まないと、お年寄りも救われないし。</p>
--	---

委員

ふだん感じていることなんですけれども、2点あります。

一つは、今までは家族とか地域でやっていたことが、社会全体として専門サービス化をしていくという、そこら辺に大きな要因があるのではないかなというふうに思います。それは、イエ制度があって、そして核家族が出て来て、お父さんとお母さんと子どもがいたのが、今度は老夫婦だけになって、そして単身世帯化していく中で、時代としては、いろいろなことがお金、立場、いろいろなサービスが今、専門サービス化をしていくことで、みんなが関わったという、社会全体がそうになっていってるのではないかなという気がします。

もう一点は、社会学者のバークマンという人が言ってるんですが、社会が個人化していってると。個人化と言うのは、何かというと、いろいろな人生、生まれてから、死ぬまでのいろいろなその岐路で、今までは家がやれと、親がやれと、あるいは地域がやれということで、家や地域にかなり、拘束されて、我々のライフステージが成り立っていたのが、それぞれが自分の選択で何でもできる。結婚も二人で決めればいいし、死ぬときの就活のお墓の形まで、自分で決めればいいというように、人生の中でそれぞれが自分で選択をして、個人化していってるといふ。限りなく個人化していってるといふわけなんですけど、そういうふうに聞くと、それを支えているのが、現在の便利な生活文明ですね。

例えば、昔は電話は家の電話やったんですけども、今、みんな個人は、スマホを持っていますよね。それからレトルトもあるし、好きなときに家に帰って、昔は誰かがご飯をつくってくれないと食べられなかったのが、いつでも好き勝手に食べられるし、ちょっと行けば、24時間レストランはあいてる、ということで、かなりある意味では、好き勝手に自分勝手な生き方ができるようになってきているところへんが、やっぱり地域での暮らし方というか、育て方も社会がこうあったらいいなと思うんだけども。みんなそれぞれが、親は親で選択しているし、子どもは子どもで選択していってるといふ、かなり一方では、望ましい育て方というのを望みながら、現実、個人はみんな好き勝手に暮らしぶりをしている。

介護保険事業計画でも地域福祉計画の調査でも出てくるんですけども、「自分は誰かに相談しますか」と言ったら、「誰にも相談しない」と。「何かあったらどうしますか」といったら、「助けてほしい」といふし、元気なときは、自分から勝手に暮らしているけれども、何かあったら助けてほしいという調査結果。

大体どこの市も、そういうふうなのが出てきてますけれども、そんなふうには、なかなか地域の中で、うまくまとまってといふか、まとまりがなくなっている。社会が液状化してきていると言ってるわけですね

<p>委員長</p>	<p>れども、こうしていったら、こうなるということが、完全に将来が揺らぐし、見えないという、そういう社会になってきているので、地域の中の障害者の問題も、子育ても、しかも子供はどんどん少なくなってきている中で、私は答えを持ってないんですけども、そういうふうな背景があるのかなと、ふだん常々思ったりしています。以上です。</p> <p>ありがとうございます。地域福祉計画にひよっとすると、エネルギー問題からね、入れこまないといけない時代がくるんじゃないかと。それだけサービスがよくなったら、エネルギーはこれだけしかなくて、枚方市には、これだけの人口になるから、こんな税収になって、どう分配するんだということまで入れていくような計画が地域福祉計画だと言ってるんですね。</p> <p>「財源をどこから持ってくるんだ」ということを市民にきっちりとお知らせをして、みんなでも考えてもらいたいというのをどこが言うのかと。審議会ですね。審議会は、学識と当事者といろいろな団体が入りますから、そこで隠さず、きっちり言っていく時代に入ったと。つらいけれど。そういうのが2040年、50年に向けての責任として、審議会として、そんなこともあって、いつも勉強会を審議会はやってきたわけですが。今先生が言われたように難しい問題になって、だからつながりを求める。一生懸命、いろいろなことをしないとけないし、いろいろな計画も横ぐしで、皆勉強しながらですね、ばらばらにするんじゃないくて、一本になる可能性、三つぐらいになる可能性も出てくるという状況が出ているなど。</p>
<p>委員</p>	<p>今、委員がおっしゃったように、時代そのものが大きく動いてきているということは、事実なんですよ。</p> <p>我々の周りを見ても、単純に言ったら、みんなスマホを見ているよ。電車に乗っても、歩いてても、これをやめろという話が今、できるのかどうか。価値観が変わってきている。いい、悪いじゃなくて、そうなっているということを認めた上で、次に何をするかということを考えていかない。</p> <p>今まで、子育ても後ろを見るような話が非常に多かった。「なぜ家で面倒を見られないんですか」という話が、基本になって進められたけれど、そうではないだろうと。そういう意味では、もう一度、計画の新たな見直しというのが必要。社会の要望にあわせて、どうしていくのかということを考える。ちょうど今、我々の世代は、過去にこうだったという話はできますけれど、それは、余り言うべきではないだろうなど。</p> <p>今回、思うのですが、何でもかんでも地域で、は難しいと思うんですね。というのは、「子どもの安心・安全な生活を守っていきますよ」と</p>

	<p>いうことは、皆言うんです。先日の大津の交通事故の事件。どう守るんですか。あれは、別に大津だけで起こった話じゃなくて、亀岡でも祇園の真ん中でも、毎年に近いような数で起こっています。どんどんどんどん無制限に広がっていきだろろうなど。だから一つのキーワードとして、安心・安全な生活というものを考えていかないと、「ここまでが福祉ですよ」「ここから先は知りませんよ」というようなことではないだろろうなど、いうことと同時に、かつてやっていたんですが、なかなか成功しませんでしたので。</p> <p>というのは、福祉の教育というのは、ずっと前からやってきたんですね。そして福祉の風土をつくらうということで、やってきた中で、みんなが変わらなければならないかと。</p> <p>そのとき、まだいろいろな議論がありますけれど、いろいろなハードルを越えながらやっていかないといけないんだけど、支援学校がどうにかならないのかなと。例えば、もともとあそこで分離しているわけですね。それを何とか一つにできないのかなと。それは、支援学校制度そのものを変えるということがありますけれど、そこまで行くには、なかなかです。距離があるので、同じ地域で生活できないかなとということの検討も必要かなと。壁をつくっておいて、「何とかみんな知り合いになりましょう」というのは難しい。</p> <p>基本のところ、見直していく。「できるところからやっていきましょう」ということがあって、それがもう一つ、今回、子どものひきこもり問題。これは、大阪府の調査があって、それに幾つかの大阪府下の市と一緒にやられた。大阪は、そういう意味では、一歩も二歩も進んでおられる。他府県は、なかなかそこまでいかないです。それだったら、「子どもの貧困調査を改めてやったほうがいいですよ」ということで、やらずに置いておく。この調査結果がどういう結果を呼ぶかということより、そこからスタートを新たにしていくためのスタートではないかなと。ということで、こういう調査を、あるいは調査というよりも、それをベースに置いた計画を2期目、まだ2期目ですので、延々と続けていただいたらありがたいなというふうに思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございます。委員どうでしょう。保育園とか幼稚園の実情も枚方市においてでも、一般論でも結構です。</p>
委員	<p>まずそちらのほうから言うと、現状、今の第一の計画で進んできている中で、先ほどの資料2のほうでいうと、昨年、この専門分科会では、就学前の教育・保育のあり方にかかる具体的・総合的プランということで、枚方市の法律、施設を中心にどうしていくのかということも話し合われていますので、今後の形というのは、つくって、計画がかなり明確</p>

	<p>になってきていると思います。</p> <p>ただ実際に園とかを増やしていくときに、先日もそうだったんですが、小規模保育事業を増やしていこうというようなことで、事業者を募集したんですが、応募がなくて、それが一旦止まっているようなこともありますので、計画をつくるということだけではなくて、それをいかに実施していけるのか。計画の数は、何個増えてきたら、これだけのニーズが見立てるといのはあるんですが、実際にその事業者がくるかどうかと。だんだん増えてきているので、それぞれの法人、持てる数というのは、限界が来ている部分もあって、なかなか応募してこれないところも多くなっている中で、それをどうしていくのか、というのが少し課題にはなってくるのかなと思っています。それが一点です。</p> <p>もう一つ、ちょっと観点が変わるんですけども、今3ページのほうの、地域福祉計画も一緒に見させてもらおうとですね、例えば3ページの6行目の終わりのほうからですね、「枚方市総合計画を上位計画とし」とあるんですが、地域福祉計画のほうをみると地域福祉計画も福祉分野の上位計画ですので、先ほど言われてました、下の図と7、8ページの図と1ページの図が矛盾してしまうのではないかと。1ページでは上位にあるのに、どこをメインに持ってきているかというところもあるかもしれないんですけども、枚方市の福祉計画が上位計画のところにあったほうが二つを見たときに。見比べたら違和感があるなと思いましたので、ちょっとこの図とかを整理していく必要があるのかなというふうに思いました。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。従来型で書かれたんだろうと思っていますので、今の委員のご提案も含めて、ちょっとお考えいただきたいと思います。委員から、まとめと一言ぐらい言っていただいて、次に移ります。</p>
<p>委員</p>	<p>やはり、それぞれの計画、住民の生活ということですよ。市民の生活というのは、切れ目のないところで行われているわけですから、やっぱり行政の縦の形でいろいろな計画があるということですけども。やっぱりそれをきちっとこう、横に見ていける計画がしっかりあるということですね、地域をつくるということになると思うんですね。そうすると地域が安定していきますと、それぞれの家庭も生活も安定していくのではないかと。</p> <p>そうするといろいろな、今出てきている、子どもの貧困の問題だとか、高齢者の問題だとか、それから、ひきこもりの方々の問題だとか、いろいろな問題がある程度、地域の中で語る土壌ができるということになってくるかと思っていますので、私も地域福祉計画のありようはですね、これから枚方市をつくっていくということも言えるぐらいの重大な計画だ</p>

	<p>などというように思ったりもします。</p> <p>それと放課後の子ども対策のほうも、私はやっております、その計画においても地域によつての差というのが、如実に出てきていて、そこで行政サービスは、どういう形でやっていくかなど。やっぱり地域ごとの施策にあった展開ということが必要になってくるので、プロトタイプ の計画とかサービスをつくっても、地域にあわないですね。これは、枚方市のサービスをつくっても、それぞれの小学校区に当てはめていったら、いろいろな地域支援があつて、もう既にやっているところもあるし、何もないというところもあつたりします。そういうところに、このタイプのサービスを入れても機能しない。そういうところが見えてきているので、やっぱり地域の中の一つの土壌をですね、非常に豊かにしていく方策を考えないと、一つ一つの政策が生きていかないというように思ったりします。</p>
<p>委員長</p>	<p>委員はどうですか。</p>
<p>委員</p>	<p>何年か私も、こういう会議に出させていただいて、いろいろな各課題を福祉計画をつくつて、それが実際にどういうふうに執行していつてるのかというのをつくつた委員である我々も、余り進捗状況も勉強もできていないし、わからないというふうな中で、こういう計画を作成していくという、この作業というのは、実際のそれぞれの地域にとっては、どうなんだろうという疑問みたいなものは、かなりあります。</p> <p>そういう中で、少し前から、この委員会でも話があつて始めていたと思うのですが。まずは、何の計画ということの前に、我々は枚方というところ、「枚方の人々の生活をこんなだったらいいな」と思えるイメージなり、夢なりみたいなものを一体どういうふうに持っているんだろう。あつたらいいだろう、というところの持論をしないといけないんじゃないかなど。</p> <p>私たちも課題別に、例えば私は障害だったり、高齢であられたり、いろいろな関わりをそれぞれの部署ごとではしているんだけど、その人たちの生活周辺に行くと、いろいろな問題を抱えた家族がおられる。だけど、その方にどういうふうに関わつていったらいいかということは、また別の課題になつていつて、そこにつながりがない、というふうな、あるいは、そこで切れてしまう。よっぽど高齢になつてから初めて、こういう人たちの存在みたいなものが見えてきたりすると。</p> <p>そういう地域というのが、今いっぱい枚方でも見えるし、具体的な事例として、いっぱいあがつてきているので、そういうのを一体、そしてら全体として把握ができて、必要なところは必要な手の出し方をしていく。そのために地域住民の方々も、その情報をしっかりと把握できる</p>



	<p>というふうな、そういう地域のありようみたいなものは、どういうふう に作っていったらいいんだろうなという疑問をもっています。</p> <p>恐らく計画、計画をつくっていても、「何になるのかな」というの が、実際に私自身、委員にいながら無責任なんですが、その辺をちょっ と感じているので、何か実のあるものになっていけばいいなというところ の感想です。</p> <p>ありがとうございます。これは、評価に関わるところでありまして、 なかなか、この分野は数量評価しにくいと言われてきておりますけれども も、各自治体、できるところから、やはり評価委員会をつくってやって おりますので、ちょっとそれも会長としても次年度というか、今年度途 中ですね。</p> <p>しかしね、これから効果的という言い方は、適切ではないかもわかり ませんが、それぞれの力がうまく結合して、共同できるような形 のものを考えないと、今おっしゃったようにむなしさが残るようなもので はいけませんので。以前に比べたら、かなりよくなっているけれども、 「どれだけどういうふうになったんだ」ということを説明責任がありま すので、きちっと説明していくといえる材料をこしらえていくというこ と。宿題をいただいたというふうに委員から、私への宿題でもあるとい うふうに受けとめさせていただきました。</p> <p>それでは、残りですね、次の課題というか、報告になるんですが、民 生委員・児童委員の一斉改選が今度12月1日からございます。ちょっ と説明と、今の状況のご報告をお願いいたします。</p>
事務局	<p>&lt;案件4「民生委員・児童委員の一斉改選にて（報告）」について 資料4にて説明&gt;</p>
委員長	<p>ありがとうございます。今日は、副委員長から、一言本当はお話をい ただくことになっておりましたけれども、残念ながらご欠席でございま すが、何か質問はございますか。</p>
委員	<p>質問ではなく、後学のために教えていただきたいのですが、最近 は、民生委員さんのなりて不足というのが、全国的になっております けれども、その中でも、せっかく推薦されて民生委員さんになった人 の中で、1年もしないうちに退任をする人が増えてきているというのを聞 くのですが、枚方市では、どんな感じでしょうか。</p>
事務局	<p>詳細の数字を持ち合わせてはいないのですが、確かにそういう 傾向がないとは、言いきれないですね。二極化というんですかね。長い</p>

<p>委員</p>	<p>方は、本当に3期4期と重ねて頑張っていたいただいている方もいらっしゃるけれど、確かに1期で、1期の任期途中でやめられるような方も現状としてはおられます。</p>
<p>委員長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>全国調査23万人全国調査をいたしました。その結果によりますと、3分の1が1期でやめておられます。ほとんど全国一緒です。大阪府下も一緒でございます。その理由として、個人情報にどこまで踏み込んだらいいかわからない。クライアントさんへの接近方法がわからない、悩んじゃうとかですね。そういうことが出てまいりました。</p> <p>ですから、今回、全民児協として、ビデオを作成して、ユーチューブに上がっていますので見てくださいね。いわゆる事例検討じゃなくて、事例学習。事例検討というのは、正しい、正しくないをソーシャルワーカーとしてやりますが、事例を使った学習ですね。共感力と、どういふふうに住民は思っているのだろうか。差別、偏見。住民の立場に立って、その気持ちになってみようみたいな話しですけども、そういう学習方法を5事例ぐらい、ごみ屋敷や、何やかんや出して、やっていただいております。</p> <p>それは、1期の人に対しての学習なんですね。もっと研修をしてほしいという、彼ら、彼女たちのアンケート調査です。ですから、何とかですね、1期目を2期目につなぎますと、そのときにやっていただくと残っていくんですね。やめてしまうのが1期目3分の1ですよ。</p> <p>それで、どんなときに喜びを感じられるかという、「助かった」ということが実感できる。それは行政につなぐ、地域包括につなぐ、どこかにつないだ後、あの方が病院に入られましたとか、あの方は、元気になりました、亡くなりました、を含め結果を教えてもらったときがうれしいと。ところが行政マンは、ほとんど結果を伝えてくれないと、そう言ってますのでよろしくお願いします。</p> <p>ですから、自分たちがやった結果がわかる。一緒ですよ、私たちの仕事と。そしたら、やりがいが出るのと。感謝されたときが一番多いですね。地域の方が「ありがとう」と言ってくれたら、次に頑張れると書いておられます。調査報告は、すごい分厚いのが出ておりますし、またお読みいただいたらいいと思います。</p> <p>そんなことで、とても大事なものでございますので、何とぞ100%になるべく、公務員の方もOBになった暁には、民生委員になっていただきたいと思っておりますし、またある地区は複数出てくるんですね。やってもいいという人が多いのに、この地区はだめという。</p> <p>今、地域ごとに縛られておりますが、法律ではそれは構わないと言っ</p>

<p>委員</p>	<p>てるんですが、100年続いていますので、旧来どおりやりたいという民児協のお考えもありますので、その辺をすり合わせてもらって、自治会によってはですね、社会実験として、2地区を3人で見るといような取り組みもされています。1地区1人、という感じはしんどいですから。そういういろいろな、工夫をしております。</p> <p>沖縄県なんか、自薦も取り入れております。いろいろなやり方を全国やっておられますので、ぜひ報告書を読んでいただきましたら、全部それも書いてございますので、工夫をしていただきたい。このように思っております。</p> <p>他の委員いかがでしょうか。</p> <p>高齢の方では、3月に分科会がありまして、30年度保険者機能強化推進交付金というのが出ているんですね。それは、国のほうから200億円、市町村には、190億円の交付金が出て、その市の評価を教えてくださいました。その評価の中で、「地域包括ケアの見える化をどうしていますか」というのが一つ。「日常生活圏域ごとの65歳以上の人の人口を把握していますか」ということと、「将来の推計を実施していますか」ということ。等々いろいろな、介護保険事業の目標が未達成の場合は、どうなっていますかとか、いろいろ聞かれる中で、枚方市さんの答えを何点か聞かせていただいたんですね。PDCAのサイクル活用に対して、保険者機能の強化は、8項目あって、最低が82の中で、枚方市さんの評価は67。自立支援と重度化防止に資する施策は、460点満点で410点。それから介護保険運営の安定化に資する施策は、70点で60点ということで、合計点数が537点で、実は枚方市さんは、43保険者の中で12位。それをどうとるのか。12位ということで、しっかりしていらっしゃるのかなと思っていました。</p> <p>その中で何か先ほど、委員からもおっしゃっていたように、人材育成の必要な介護人材の確保のためには、何か行政として取り組みをしているかどうか、というところの質問が最後にあったんですけども。今枚方市は、2025年までに14,000人の人材確保が必要だと答えを出していただいているんですけど。今、私ども本当に人材が大変、「処遇改善ですごいお金を出しますよ」と国は言ってくださっているんですけど、なかなか集まらないのが現実で、私も社内で調査をしたんですけど、なかなか難しいですね。みんな、それが事業所が一生懸命頑張らないといけない問題なのか、はたまた行政が25年度に向けて、数字は出たけれど、どんな取り組みをしているのかな。そこで発表されて、評価が上がっているのか、下がっているのか、ひょっとしたら、その部分のマイナスが出ているのじゃないかなと思っています。以上です。</p>
-----------	--

委員長	<p>ありがとうございます。職員の方も課が違くと、「そんなのがあるの」という顔がちらほら見えましたし、私たちも「へー」というような感じだから、ぜひぜひ次回から、枚方市にまつわるトピックスみたいなのは、出していただけるといいですね。今度は、勉強会を再開しますので。それぞれまた、会長さんに15分ずつぐらいのお話をよろしくお願ひします。それでは、これで本年度の第1回社会福祉審議会本審を終了いたします。どうもありがとうございました。</p>
-----	--